

インドリヤニ ラフマン

2011M30002

ABSTRACT

本研究は、環境教育のワークショップがインドネシアの教師の教育実践力に影響を与えるかどうか研究することを目的としている。

ワークショップは、東カリマンタン州・バリクパパン市内の小学校に勤務する教師を対象に二日間、実施した。

インドネシアの東カリマンタン州・バリクパパン市は、インドネシア政府が保有するクリーン都市プログラムで ADIPURA 賞を得ている都市である。このプログラムは、都市の清浄度向上を図るためにインドネシアの各都市を奨励するインドネシア政府の取り組みである。また、ワークショップに参加した教師は、学校の環境ランキング制度 (ADIWIYATA) において優秀な学校に分類される小学校の教師を含む 39 名である。

ワークショップの主眼は環境教育に関するワークブックの活用である。このワークショップでは、小学 4 年生への環境教育を教える方法に関する教師への指導と説明を行った上で、教師たちはワークブックを使って環境についての学習を行った。その後、バリクパパン市の地理的位置に基づいて選択した 6 つの小学校で、実際にワークブックを用いた環境教育が教師たちによって実施された。

さらに、ワークショップが開催された 1 年後にアンケートを行った。このアンケートでは、ワークショップに参加した教師の指導における変化や影響について尋ねている。この調査では、ワークショップで教師の指導の経路に影響を与えたことが分かった。そのため、このワークショップは環境教育を教える上で継続的に技術革新を取得する目的で定期的に開催することが期待される。

環境教育のワークショップは、教育における教師の能力を向上させることや、インスピレーションを与えること、教師間の通信におけるメディアとしてすることを目的としている。しかし、教育の成功は教師が自分自身の向上に強い意識を持つかどうかによって大きく異なるのである。